

旅行取扱状況の概観（平成27年3月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比99.0%とやや下回ったが、学生団体は同100.5%と前年を上回り、団体旅行合計で同99.8%とほぼ前年並みで推移した。企画旅行については同74.6%、個人旅行についても前年比85.3%と前年を下回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比83.4%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比76.9%、学生団体は同95.7%、団体旅行合計では同83.9%と前年を下回った。企画旅行については同99.9%、個人旅行についても同96.5%と前年を下回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、96.1%と前年を下回った。

外国人旅行は、前年比149.6%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の3月の総取扱額は前年比92.8%となり、前年を下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は前年比99.4%と前年をやや下回った。学生団体は前年に大型修学旅行を取り扱った影響はあったものの、海外研修等の取扱い増加により同100.7%と前年を上回った。この結果、海外団体旅行合計で同100.1%と前年を上回った。

国内団体については、一般団体は前年に大型の企業系コンベンションや文化イベントを取り扱った影響もあり、前年比76.8%と下回った。学生団体は取扱い団体本数や販売単価の減少に伴い前年比95.1%と下回り、国内団体旅行合計で前年比83.7%と下回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比97.1%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、関西方面が好調を維持しているのに加え、北陸、南紀、中国四国、九州方面も好調であった。

ホリデイは、引き続き東アジア方面を中心として全般的に不調である。各方面とも低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり、全体の取扱人数、取扱額とも前年を下回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、オセアニアや海外SITは引き続き好調に推移しているものの、チュニジア銃撃テロ事件などの影響を受け全体的に取扱高が伸び悩み、取扱額で前年比86.8%と前年を下回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、北陸新幹線の延伸開業や姫路城のグランドオープンなど3月中旬以降大きな話題の観光素材の相乗効果はあったものの、同97.8%と前年を下回った。

バス旅行部門は、日帰り商品が好調に推移し前年比101.3%と前年を上回った。

テーマ旅行部門は、倉敷の大原美術館貸切やウィーンの第9コンサートなど良い素材はあったものの、同97.8%と前年を下回った。